

変える力はここにある！ 私たちが歴史を動かす！

3.11反原発福島行動'16

【日時】 3月11日(金) 13時～ 【場所】 郡山市 開成山・野外音楽堂
【呼びかけ】 3・11反原発福島行動実行委員会
【メール】 3.11fukushimaaction@gmail.com



●「自衛」は戦争を肯定するための論理

かつての第二次世界大戦が、日独伊にとっては「自存自衛の戦争」であり、英仏米にとっては「ファシズムから民主主義を守るための戦争」であった（原爆もまた「戦争を終わらせるための兵器」として開発された）ことを忘れることはできません。なぜなら、その論理は現在に至るも継承され続けているからです。

「抑止力」と掲げて大国の核を肯定し、「核の平和利用」と掲げて原発を称賛するように、「自衛」「平和」を掲げて安倍政権は戦争をやろうとしています。

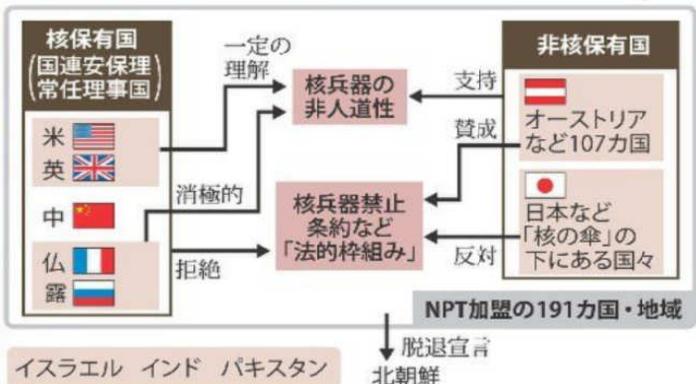
にもかかわらず、国会の中は、民主党から共産党に至るまで全党派が「自衛」戦争には賛成の立場です。とりわけ共産党はあろうことか、自らが政権入りした場合は「日米安保破棄の方針を凍結する」「自衛隊を積極的に活用する」「急迫不正の主権侵害に対しては個別的自衛権で対応する」などと、自分たちが戦争に“絶対反対”ではないことを最近になって次々とアピールし始めました。これこそ敵の凶暴さと戦争のリアリズムに屈伏・転向した「左翼」の成れの果てです。こんなニセモノに代わる、私たちのためのホンモノの政党を自分たちの手で創り出そう！

▼安倍にとって原発、核、戦争は必要なもの

昨年の核兵器廃絶に向けたNPT(核不拡散条約)再検討会議と国連総会に、権力者たちの核に対する姿勢が端的に示されています。ここでは「核兵器の使用禁止と廃絶に向けた法的枠組みをつくる」決議案が出されましたが、いずれの決議においても核保有国は棄権あるいは反対し、日本など「核の傘」の下にある国々も決議を棄権しました。

また安倍政権は昨年12月、インドに原子力技術を提供する日印原子力協定の合意をしましたが、そのインドはパキスタンとの国境をめぐる争いの過程で核実験競争を行ってきた国であり、NPTにもタテマエ的にすら加盟していない国です。

結局、彼らは自らの権力の維持と金儲けに必要な核を絶対に手放さないつもりなのです。



7月選挙戦に立候補決意!



斎藤いくま
全学連委員長
衆院選出馬へ!

(衆院選の場合・東京8区=杉並区から)

◆斎藤いくま全学連委員長プロフィール

- * 2007年4月、法政大学法学部政治学科に入学。
- * サークル団体である文化連盟委員長として法大闘争に参加し、「無期停学」処分を受けながらも10年間にわたる法大闘争を牽引。
- * 2011年9月から全学連(全日本学生自治会総連合)委員長に。

●学生の行動が戦争を止める

戦争を始めるのは各国の支配者ですが、実際に戦場で銃を握るのも、その銃をつくるのも支配者ではなく私たち学生・労働者です。そのことは戦争の本質が”支配者の覇権争いのために民衆が殺し合わされる”ということを示しています。しかし、その事實は裏を返せば、私たちが戦争動員を粉砕すれば、戦争を実質的に止めることができるということでもあります。

とりわけ学生・大学が、戦争にいかなる立場をとるのが問われています。昨年夏、防衛省予算の研究公募に58大学が応募し、戦後はじめて大学が軍事研究に手を付けました。また学生の就職難や奨学金の返済という弱みに付け込んで、自衛隊への入隊を促進する「経済的徴兵制」も進められています。

私たち全学連は、こうした大学の在り方を実力で打ち破るために、昨年11月京都大学でストライキを行い大学の機能を停止させました。今年は全国大学でのストライキを実現するべく闘う決意です。そのためにも多くの仲間が必要！ すべての学生は全学連と共に闘おう！ 3.11反原発福島行動に集まろう！



昨年9月、国会前に戦争に反対する人々が最大時一日で12万人集まった。

ストライキと国際連帯で戦争は止められる